



---

## Session 3

# 横につながる～ビジネス ネットワークの意味

---

古澤千明  
WWFジャパン 森林プログラム  
責任調達(紙)担当

---

WWFジャパン ビジネスセミナー  
「サプライチェーンマネジメントによる  
持続可能性」  
2014年6月23日(月)



# サプライチェーンマネジメントによる持続可能性 紙にまつわるリスク

紙＝全てのビジネスに欠かせないもの

そもそも紙は木材を原料につくられる。  
安易な紙の選択は、環境破壊に加担することになりかねない。



RAN protest against Disney in 2010.  
Photo: Margery Epstein




紙の利用に関するNGOのキャンペーン

自然林皆伐後につくられる植林地(手前)、奥に広がるのが自然林。製紙原料用の広葉樹は5~7年で収穫される早生樹。こうした植林地は、自然の森の環境とは異なる。



# 「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」 発足の背景

## ■森林は再生可能な資源

FSCのように信頼できる森林認証制度に認められた製品は、使うことによって森林保全や社会に貢献することができる。

## ■日本は世界有数の紙消費国

利用量削減と再生紙の利用は資源の有効利用にはなる。しかし、利用量の削減や再生紙の利用には限界がある。



単に紙の利用を否定し、再生紙を追求するのではなく、用途に応じて、責任ある選択をすることが、森林保全につながる。

→「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」発足へ

**世界の森林減少と日本の紙利用**

地球には、約40億ヘクタール、開地の約3分の1にも相当する面積の森林があります。しかし世界の自然の森は、今も毎年1300万haの速さで減少を続けています。自然の森の減少は、特に生物多様性豊かな熱帯地域で深刻です。自然の森が大規模に破壊されることにより、環境面の問題はもちろん、人々の生活や土地利用をめぐる社会的な問題にまでも発展しています。

こういった問題の背景には、さまざまな要因がからみ合っていますが、その一つに、製紙用の原料調達や植林地として利用するための土地開発があります。日本の紙消費量は、世界第3位。一人当たりの消費量も世界平均の4倍です。多くの製紙品や原料を海外から輸入する日本は、この問題に深く関与しているといえます。

**持続可能な紙利用を社会全体で推進するために**

紙は全てのビジネス、そして人々の生活に欠かせないものです。また本来、時間とともに成長する森林は、適切な森林管理や周囲の環境・社会への配慮が十分に行われていれば、将来にわたって使い続けることのできる資源といえます。もちろん、紙を生産・供給する種が適切な森林管理や責任ある原料調達、奨励を行うことは欠かせません。しかし、それを利用する側においても、この問題をしっかりと認識し、十分な配慮を行う必要があります。そのため、本コンソーシアムに参加する企業は、2020年までに自らの事業活動において持続可能な紙利用を実践するとともに、その意識が社会全体に広まるよう、情報発信や普及啓発活動を行います。

**紙・紙類消費量**  
(単位: トン)

1. 中国	87,331
2. アメリカ	53,370
3. 日本	28,038
4. ドイツ	18,770
5. インド	11,481
6. ブラジル	10,590
7. イギリス	10,274

**一人当たりの年消費量**  
(単位: kg)

1. ベルギー	312
2. オーストリア	281
3. ドイツ	243
4. アメリカ	231
5. アラブ首長国連邦	225
6. 日本	200
7. スウェーデン	113
世界平均	57

出典: RISI Global Review 2012



# 「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」

## コンソーシアムの目的と具体的な活動

---

### ■目的

紙を生産・供給する側だけではなく、紙を利用する側も含めた社会全体でこの問題を認知し、適切な紙利用を推進。

- 一企業や一組織の力は限られている。異なる専門性を持つ組織が協働することで、単体の企業や組織にはない影響力を持つことが出来る。
- 最終消費者に近い企業・ブランドが取組むことで、一般消費者への普及啓発にも貢献。

### ■目標

参画企業は、責任ある調達方針を策定して事業活動を通じて実践。

### ■具体的な活動

- 持続可能な紙の利用を進めるための情報提供
- 情報発信や普及啓発活動
- メンバー間での定期的な情報共有
- サプライヤーや取引先への取組みの拡大など



ありがとうございました

---

[www.panda.org](http://www.panda.org)

お問合せ:

WWFジャパン

自然保護室 森林プログラム 古澤千明

[chiaki@wwf.or.jp](mailto:chiaki@wwf.or.jp)

TEL 03-3769-1364